

(仮称)銚田市子育て・コミュニティセンター  
基本設計(案)概要版









## 施設計画方針

本基本設計は、下記の基本計画で示された整備方針に基づき、設計を進める。

### 1. 施設整備の基本方針

飯名地区の市有地を利活用するための施設は、基本構想及び3つのコンセプトに基づき、「子育て支援機能」、「情報発信機能」、「コミュニティ活動機能」、「多目的広場機能」を複合的に備えた「コミュニティセンター」及び「多目的広場」とする。

施設を整備するにあたっては、「銚田らしさ」を念頭に、銚田をイメージできるデザインを考慮するとともに、ふれあいやにぎわいを創出する空間となるよう、導入する機能を連携させて人々の交流の活性化を図り、これからの新しい銚田市をつくり上げていく「未来ステーション」として、以下の項目に配慮した施設とする。

#### 子どもたちが体を動かして遊べ、親同士でゆっくり過ごせる施設

- ・子どもたちの発育、発達状況に応じ楽しめる施設
- ・子どもたちが、想像力を掻き立てながら遊べる施設
- ・子どもと親もゆっくりくつろげる施設
- ・親子でイベントなどを楽しめる施設

#### 銚田市の情報を発信し、多様な人々の交流が絶え間なく生まれる施設

- ・農業や自然をはじめ、銚田市の魅力を内外に発信できる施設
- ・観光情報、イベント情報及び特産品の紹介などを提供できる施設
- ・イベントを定期的開催するなど、利用者が気軽に立ち寄れる施設
- ・市民同士が情報交換できる場がある施設

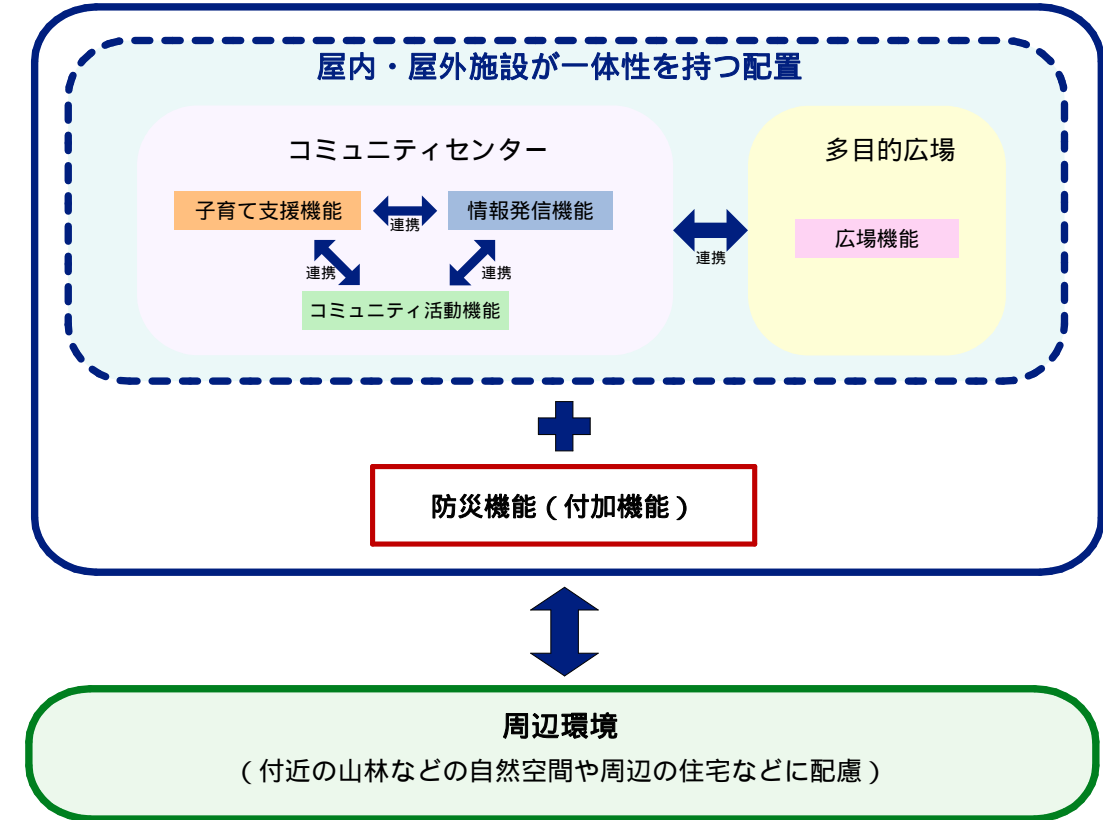
#### 市民が生涯にわたって、喜びや生きがいを感じる施設

- ・幅広い世代の市民が、自主的に活動できる施設
- ・市民が主役で、多彩なイベントが開催できる施設
- ・市民が、舞台公演や芸術作品などの文化芸術に触れることができる施設
- ・市民の教養向上のため、生涯にわたる学びの機会がある施設
- ・公民館と同等の機能を備えた施設

#### 誰もが訪れやすく、市民ひとりひとりにサービスを提供する施設

- ・幅広い世代の市民にとっての居場所となる施設
- ・子ども、高齢者や障がい者など誰にでも使いやすい施設
- ・省エネをはじめ、環境にやさしく、維持管理コストを軽減した施設
- ・将来変化の柔軟に対応し、長きにわたり市民に親しめる施設
- ・情報通信技術を活用した施設
- ・災害時に市民が、安心して一時避難できる施設
- ・周辺にある市役所等の公共施設と連携した施設

### 2. 施設と機能の導入イメージ





# 建築概要

## 計画概要

敷地 : 茨城県銚田市飯名484番地7ほか  
 敷地面積 : 27,767㎡  
 建物用途 : 建築基準法/劇場・集会場

建築面積 : 5,203.01㎡  
 計画建ぺい率 : 18.74%  
 延床面積 : 5,072.99㎡  
 計画容積率 : 18.27%  
 建築規模 : 地上2階建、地下無し(地上1階 一部 地上2階)  
 耐火要求 : 耐火建築物  
 最高高さ : 12.6m

主要諸室 : プレイルーム、子ども図書室、多目的フロア、情報スペース、会議室、市民活動室、カフェ

ホール概要 : 1階 464席(ロールバックチェア)  
 141席(スタッキングチェア) 計605席

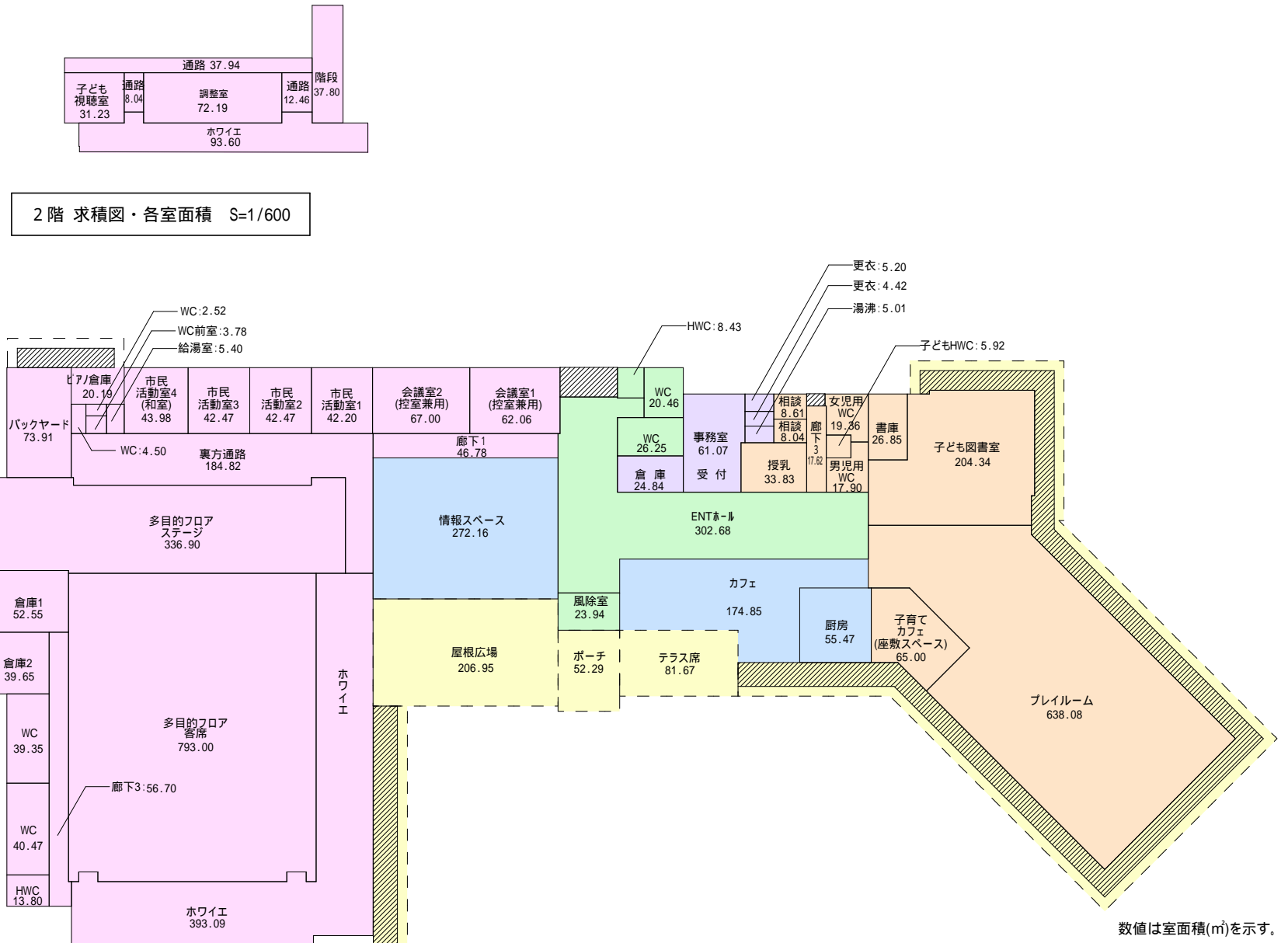
駐車台数 : 常時188台 臨時102台 計290台  
 (車椅子使用者用3台)

## 構造概要

構造種別・形式 : 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造 ・ 耐震壁付きラーメン構造 (コミュニティ活動機能)  
 鉄骨造 ・ ラーメン構造 (子ども遊び場機能・情報発信機能)

基礎 : 直接基礎 (地盤改良併用)

耐震性の分類 : 構造体 : 類  
 建築非構造部材 : A類  
 建築設備 : 乙類



2階 求積図・各室面積 S=1/600

1階 求積図・各室面積 S=1/600

数値は室面積(㎡)を示す。

### 建築基準法上の面積

延床面積	
1階床面積	4,779.56㎡
2階床面積	293.43㎡
延床面積	5,072.99㎡
(内屋根広場・ポーチ・テラス席340.91㎡)	
建築面積	
建築面積	5,203.01㎡
(建築面積:1階床面積+部面積)	

### エリア別面積

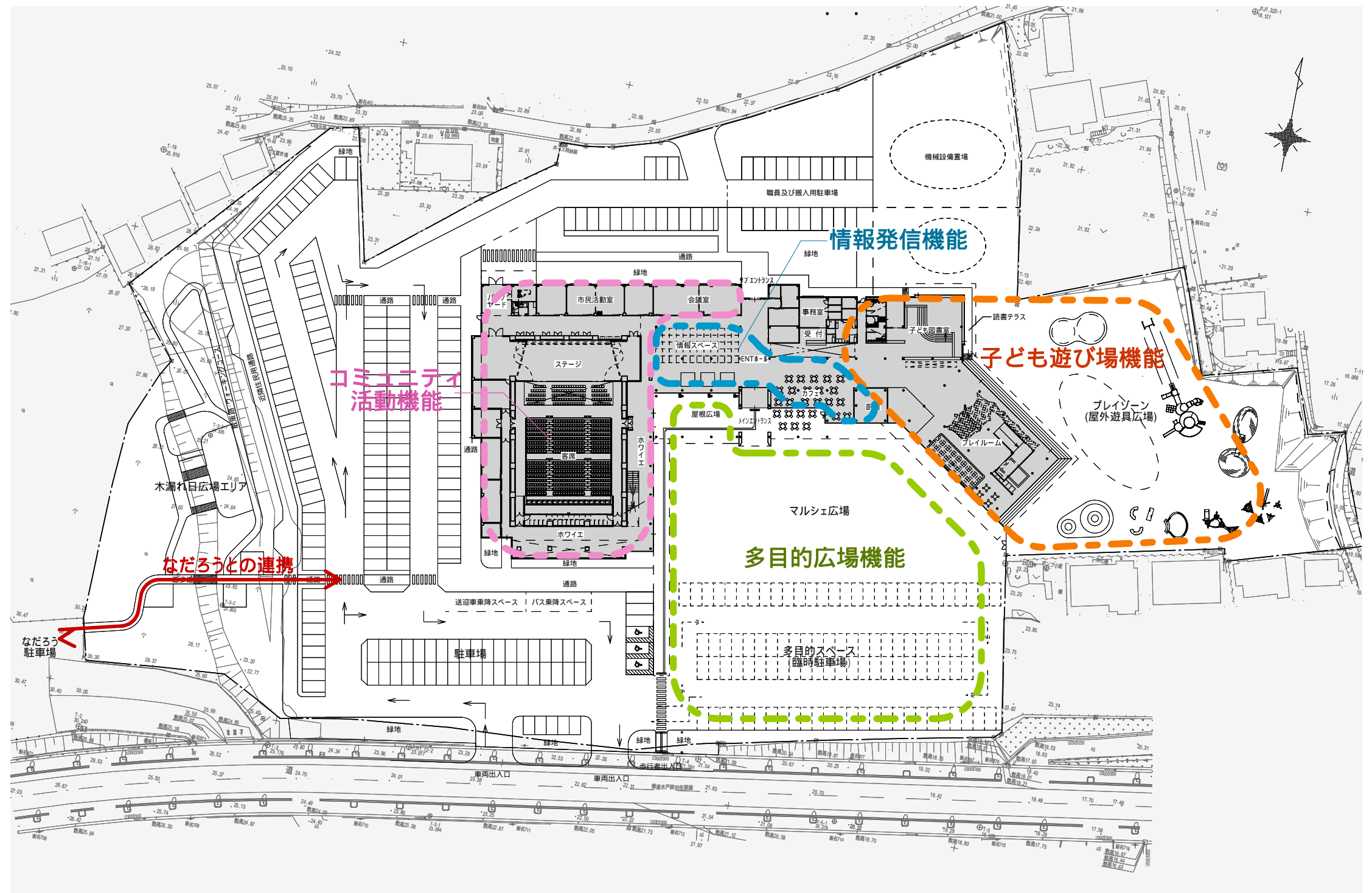
凡例	エリア名	面積
	子ども遊び場機能	1,045.60㎡
	情報発信機能	502.48㎡
	コミュニティ活動機能	2,700.52㎡
	共有スペース	381.74㎡
	施設管理機能	100.56㎡
	屋根付き範囲	911.04㎡
	建築面積に算入する部分	423.45㎡



ゾーニング計画

施設整備機能

子ども遊び場機能
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て中の親子が交流できる機能や雨天時でも子どもが遊ぶことができるスペースなどを有し、安心して子どもを育てられる環境づくりに取り組む。</li> </ul>
情報発信機能
<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹産業である農業を中心に、銚田市の産業や観光資源などの魅力を発信する機能を有するほか、来場者の休憩所機能を備える。</li> </ul>
コミュニティ活動機能
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が集まり多様な活動ができる機能を中心に備え、市民活動の活性化を図り、にぎわいと活気があふれるまちづくりに取り組む。</li> <li>幅広い世代の多様な活動に対応するため、汎用性の高い諸室を有し、様々な用途での利用ができる機能を備えるものとする。</li> <li>今後、銚田中央公民館は、経年劣化により建替え等の改善が必要なことから、本施設に機能を移転し、引き続き利用団体が活動できる環境づくりを計画する。</li> </ul>
多目的広場機能
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の憩いの場となるような広場や親子のふれあいの場を備えます。広場は、小規模なイベントが開催できる広さとする。</li> </ul>



ゾーニング計画図 S=1/1000



## 配置計画

施設での活動による賑わいや活気が、発信できる施設配置を考えた。そして、建物正面を南側に向け、マルシェ広場や多目的スペースといった、イベント利用をする広場空間を南側道路から視認し易い配置とした。また、南側道路の西側から敷地をよく見渡せるということも配置計画において考慮し、視認性をよくすることで、誘引性を高め、気軽に立ち寄りやすい配置計画としている。

### プレイゾーン(屋外遊具広場)

- ・子どもの屋外遊び場として整備するプレイゾーンは、駐車場から離し、独立した空間とすることで、子どもが安全に遊ぶことができる空間形成を図った。
- ・マルシェ広場や多目的スペースも駐車場とエリアを分けることで、利用者の安全性に配慮した。

### マルシェ広場

- ・建物形状をコの字型とし、建物前面に広場空間を形成することで、イベント時に利用できるマルシェ広場を配置した。
- ・建物で囲まれた広場とすることで、落ち着いた空間性が生まれ日常時においても、市民の憩いの場とすることができる。

### 多目的スペース

- ・マルシェ広場と駐車場との間に多目的スペースを設けることで多様なイベント規模に対応できる配置とした。
- ・屋外イベントの規模に応じて広場空間を拡張でき、多目的フロアでの大人数イベント時には臨時駐車場としても利用できる配置とした。

### 駐車場

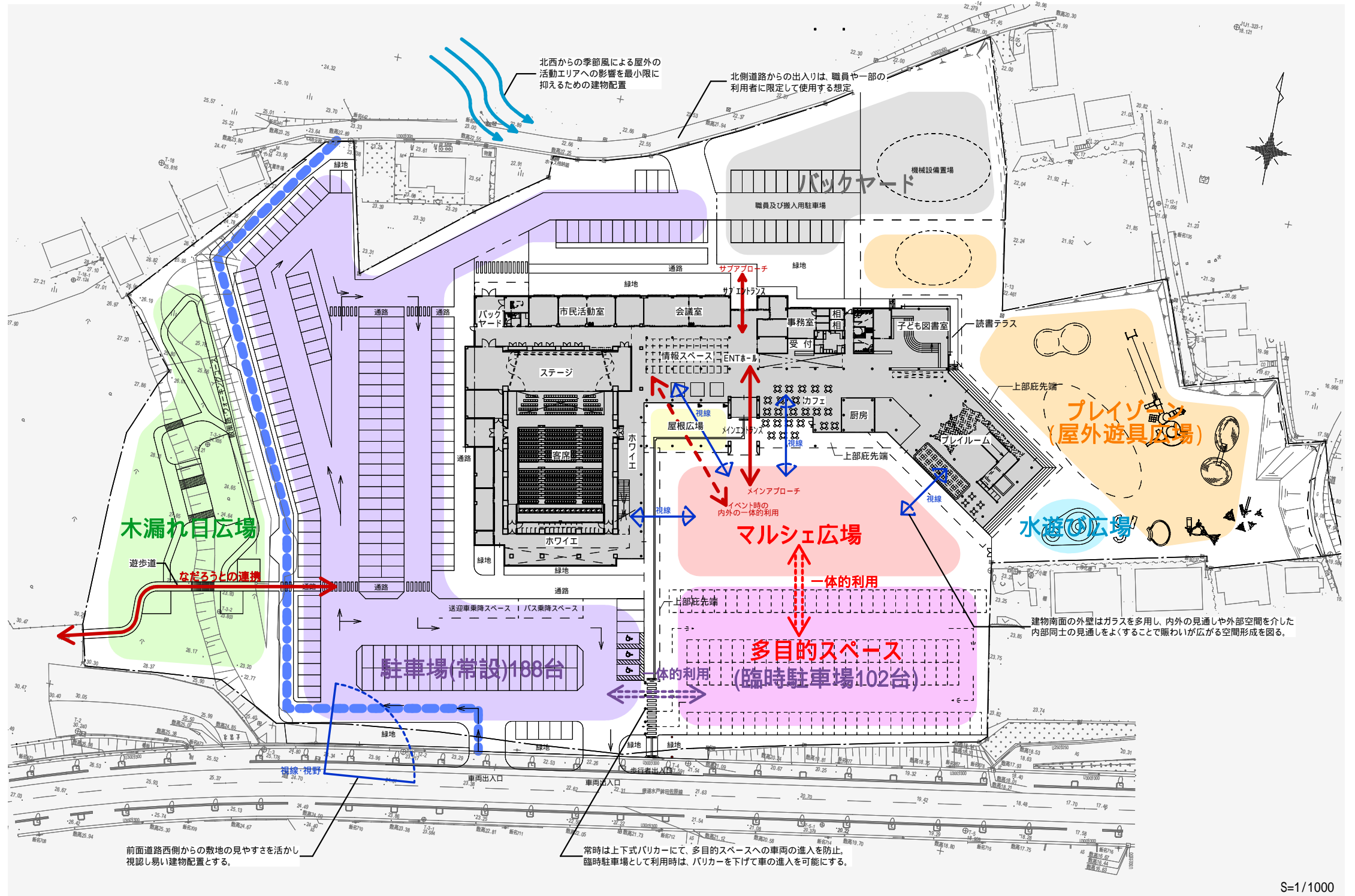
- ・市民の主要交通手段が自家用車であることを考慮し、駐車場スペースを臨時駐車場含め、全体で290台確保した。

### 木漏れ日広場

- ・敷地西側のエリアは、隣接する「JAなだろう」との連携を図った遊歩道を整備するとともに、既存の地形、雑木林を残しながら木漏れ日広場を計画する。

### 近隣住民用通路

- ・木漏れ日と駐車場の間に、敷地北側道路と南側道路とを接続させる近隣住民用通路を計画した。



S=1/1000

<p><b>プレイゾーン・水遊び広場</b> 保護者が安心して子どもを遊ばせることができるように駐車場から離し、遊び場は明確なエリア分けを行う。また、屋内のプレイルームと面することで、内外を自由に行き来できる遊び場を計画する。</p>	<p><b>マルシェ広場</b> 建物をコの字型とすることで、広場空間を形成。ガラスを多用した建物外壁により、内外の視線を通し、また、庇などで半外部空間をつくることで建物内部とマルシェ広場に連続性を持たせる計画とする。</p>	<p><b>多目的スペース</b> 常時は自転車の練習やボール遊びなど、子ども向けの広場としての利用を想定。マルシェ開催時などは、マルシェ広場と一体的に使い大人数の集客イベントを開催する際は、臨時駐車場として使用できるように計画する。</p>	<p><b>遊歩道整備と木漏れ日広場</b> なだろうと結ぶ遊歩道を整備し本施設となだろう間で連携を図る。既存の雑木林を適宜整備し、自然と触れ合える木漏れ日広場として整備する。</p>	<p><b>エントランス</b> メインエントランスは建物の中央部かつ広場空間の中央部に設け、諸室へのアクセス性や外部空間との連続性に配慮。北側の駐車場からのアプローチも考慮し、サブエントランスを北側に設ける。</p>	<p><b>屋根広場</b> 明るい広場空間に配慮し、屋根広場を建物南側に設ける。『情報スペース』と『屋根広場』と『マルシェ広場』の一体的利用を想定した計画とする。情報スペースの開口部を全面開放できる折れ戸とし、屋根広場との連続性ととも、屋根広場による半外部空間を介した、マルシェ広場との連続的な利用を図る。</p>
---	---	---	--	---	--



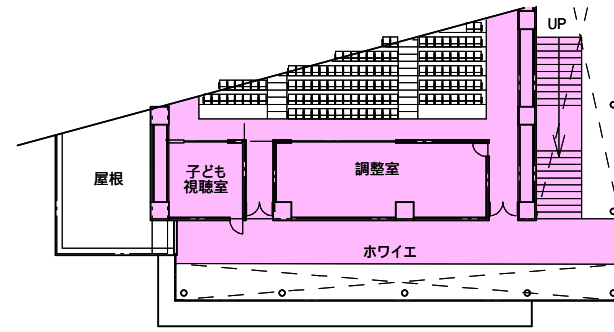
## 平面計画

複合施設として、各機能の交流が最大限に発揮できる計画とした。施設のどこにおいても、人々の活動と賑わいを感じることができるよう、コの字型の平面形状で計画をし、各機能の配置に配慮した。

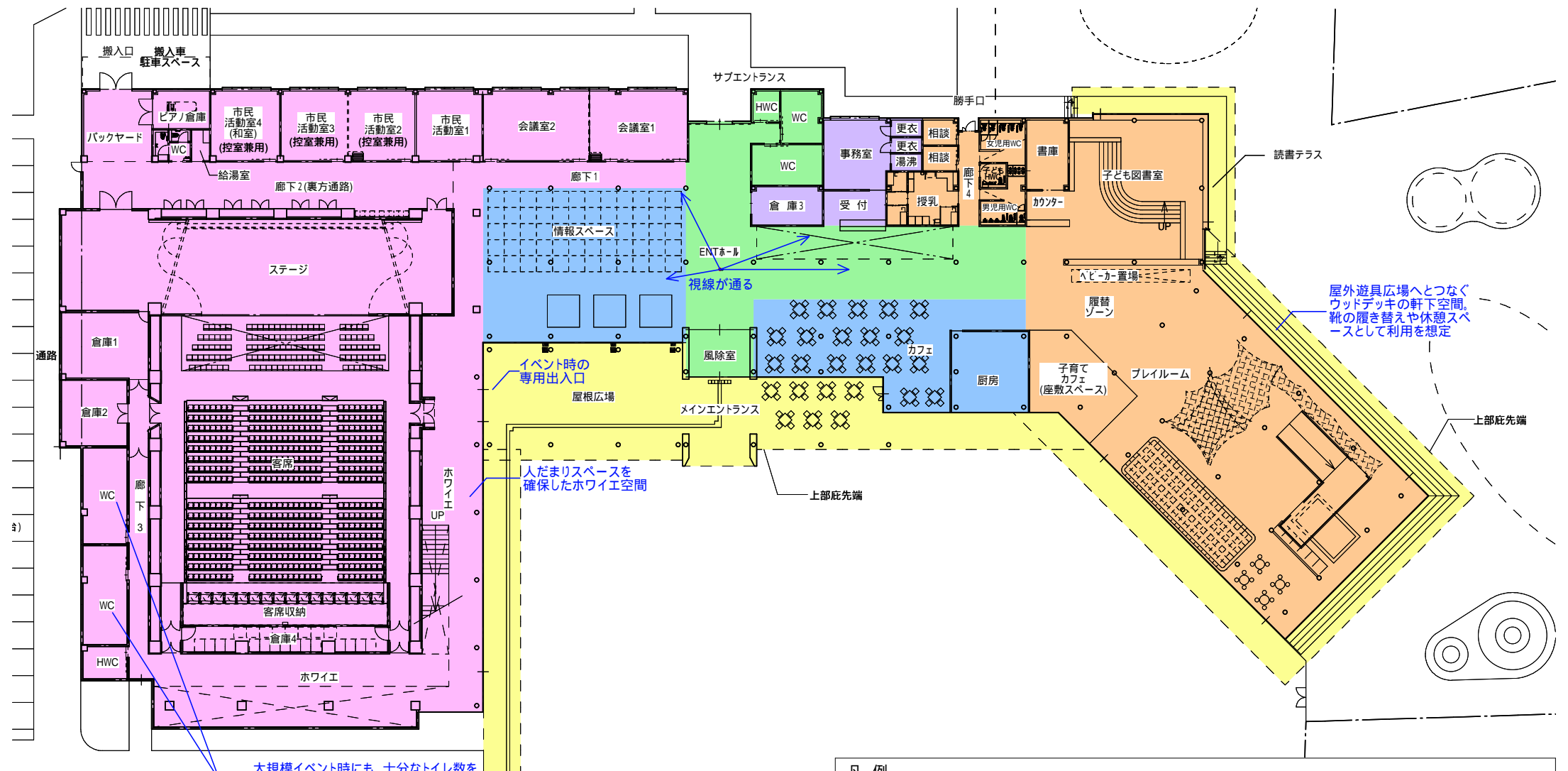
エントランスホールの周りに各機能を配置することで、建物中央部での利用者間の交流や賑わいの創出を図った計画としている。

### 諸室配置

- 空間的、視覚的に連続性を持たせた諸室配置とすることで、それぞれ別の目的を持った来館者を、建物各エリアへ誘引する計画としている。例えば、プレイルームなどに遊びに来た親子などが、コミュニティ機能諸室での催しにも参加してみようとする、人の流れを作り出すことを図っている。
- エントランスホールやカフェのオープンスペースを広く計画し、開放的でゆったりとした空間としている。
- マルシェ広場に面した建物外部には、大きな屋根の広場や、庇を全体的に設けた軒下空間を形成している。カフェテラスのほか、ベンチを置くなどし、内外ともに佇める空間形成を図っている。
- 施設に回遊性をもたせるとともに、来館者の滞在性を高め、交流拠点としての魅力が発揮できる計画としている。



2階平面図



1階平面図 S=1/500

凡例					
子ども遊び場機能	情報発信機能	コミュニティ活動機能	共有スペース	施設管理機能	屋根付き範囲

<p><b>エントランスホール</b> エントランスホール周辺には壁を極力設けないオープンなスペースで各エリアをつなげる。視認性が高まり、室配置がわかりやすくなり、賑わいも伝わりやすくなる。</p>	<p><b>情報スペース</b> エントランスホール横に配置し、開放的で広い間口で接することで、情報スペースへの誘引性を高める。また、内外のイベント連携を考え前面に屋根広場を配置。</p>	<p><b>カフェ</b> テラス席を設けたカフェ空間をエントランスホールに面して配置することで、気軽に利用でき、親しみやすく、賑わいのある空間を創出する。</p>	<p><b>プレイルーム</b> プレイルーム内のにぎやかさを外部へ発信されるように、敷地南側に配置。マルシェ広場との視線のつながりや、屋外遊具広場との活動のつながりを意識した配置としている。</p>	<p><b>子ども図書室</b> 読書のしやすさや本の保管性にも配慮し、やわらかい自然光が入る北東に面して配置。</p>	<p><b>多目的フロア</b> 600人規模の多目的フロア。大規模イベント時に、他のエリア利用者との干渉を軽減し、単独利用も可能な配置計画。</p>	<p><b>市民活動室・会議室</b> 落ち着きを要する利用も想定されるので活動的なエリアとは離して配置。</p>
---	--	--	--	--	---	---



## プレイルーム計画

雨天時でも子どもが、のびのびと身体を動かして遊べ、子育て中の親子が交流できる場所を計画する。

『大空間に様々な遊具があり、部屋全体に賑わいが溢れるおもちゃ箱のような空間』をコンセプトに、乳幼児から学童を対象とし、発育・発達状況に応じて楽しめる遊具計画とする。

### プレイルーム

- ・開放感と視線の通りやすさに配慮し、間仕切り壁を極力設けず、保護者が見守りやすく、親子同士の交流促進を図れる計画とする。
- ・子どもの好奇心や想像力を刺激することを図る遊具計画を行う。また、子どもの安全に配慮した遊具配置やエリア分けを行う。

### 子育てカフェ

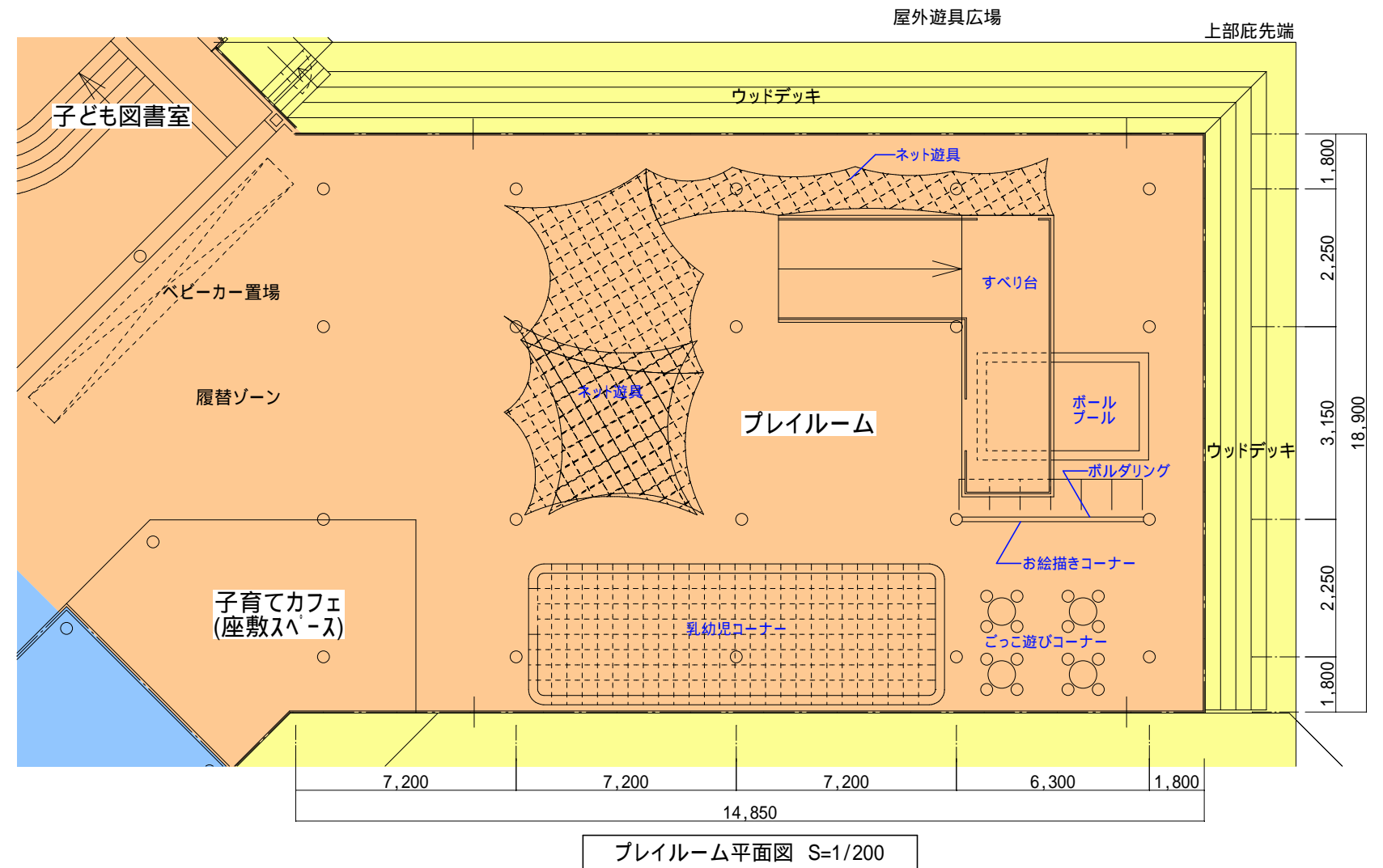
- ・カフェで購入した飲食物、子どものおやつや離乳食などを飲食できるスペースとし、プレイルームで遊ぶ子どもを見守りながら、親同士での交流も図れる場所として計画する。

### 遊具

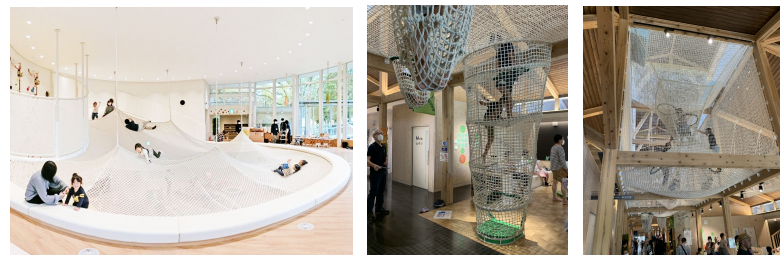
- ・運動能力が発達した子ども向けには、ネット遊具、すべり台、ボルダリング、ボールプールを設け、身体全体を使うような遊具を計画する。
- ・乳幼児向けは、クッション性の床材を敷き、他エリアとは区切って設ける。はいはいやよちよち歩きの乳幼児の動きや、保護者が近くで見守りながら遊ばせることを考慮し、広いスペースを設ける。
- ・身体を動かす遊びだけでなく、積み木やブロック遊び、ごっこ遊びやお絵描き等を行えるコーナーも設ける。

### 屋外遊具広場との接続

- ・外部には庇とウッドデッキを施し、内外を繋ぐ軒下空間を計画することで、休憩スペースとしても利用でき、連続的に屋内遊びと屋外遊びを行うことができる。



ネット遊具イメージ



- ・不安定な場所を登る、渡るなど、普段行わない動作を行うことで、子どものバランス感覚が養われる。
- ・不安定なネットの上で、転んだり、網の間に足が挟まってしまったりといった失敗経験を積む間に、子どもの危機回避能力の向上が期待できる。
- ・『どこから登ろうかな』、『どうやって登ろうかな』と考えながら遊ぶことで、自発性と積極性を鍛えることができる。

ボールプールイメージ



- ・ボールを掴んで、投げて、取って、集めて飛び込んで、泳いで、潜ってなど様々な運動が行える。

すべり台イメージ



- ・すべったり、よじ登ったりして遊ぶすべり台。
- ・すべり台の上部はネット遊具につなげ、回避性のある計画をする。

子育てカフェイメージ



ボルダリングイメージ



- ・全身を使った体幹運動ができる為、日常生活では鍛えることができない筋肉も鍛えることができる。
- ・『あたま』と『からだ』を使った運動が行える。

- ・乳幼児連れでも、利用がしやすいように小上がりの座敷スペースを設ける。

乳幼児コーナーイメージ



- ・乳幼児の安全に配慮したコーナー。クッション性のある床材を敷いて、ハイハイやよちよち歩きの子どもが安心してのびのびと遊べるコーナーとする。
- ・子育てカフェと隣接配置することで、小さなおもちゃをカフェ内で利用するなど、一体的な利用が可能。

ベビーカー置場イメージ



お絵描きコーナーイメージ



- ・大きな壁にホワイトボードマジックでお絵描きができる。磁石にも対応し、マグネットとお絵描きを組合せて遊ぶことができる。
- ・水ぶきで簡単に落とすことができる。

ブロック遊びコーナーイメージ



- ・自宅ではなかなか置いておけないような、大型のブロックで遊べるコーナー

## 子ども図書室計画

子ども図書室は、子どもが本に興味や好奇心をもち、読書のきっかけを与えるような場所として計画する。『親子でゆったりした気持ちで本に親しみ、大きなリビングのような和やかな空間』を目指す。

蔵書数は、2,500冊程度を収納できる計画とする。

床に座ったり、寝ころんだりしながら、好きな体勢、好きな場所で本が読め、気軽に利用できる図書室を計画する。

### 室内構成

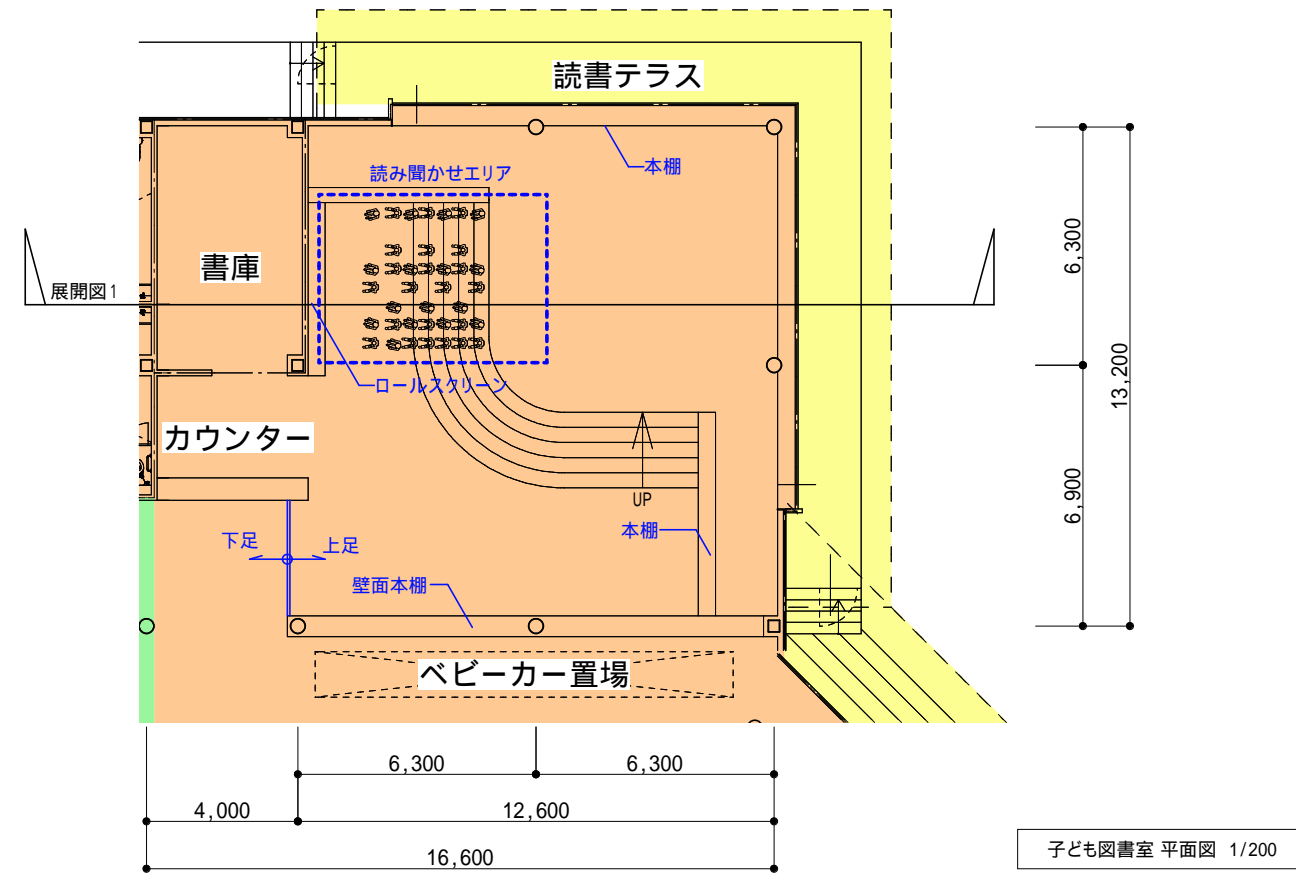
- ・室内で床の高さを変える計画としており、出入口側と比較し、奥のスペースを60cm程高く設定している。床高を変えることにより視認性を高め、階段は人が座りやすい奥行(40cm程)の踏み幅とし、横幅広く設けることでベンチ利用も兼ねる計画とする。

### 読み聞かせスペース

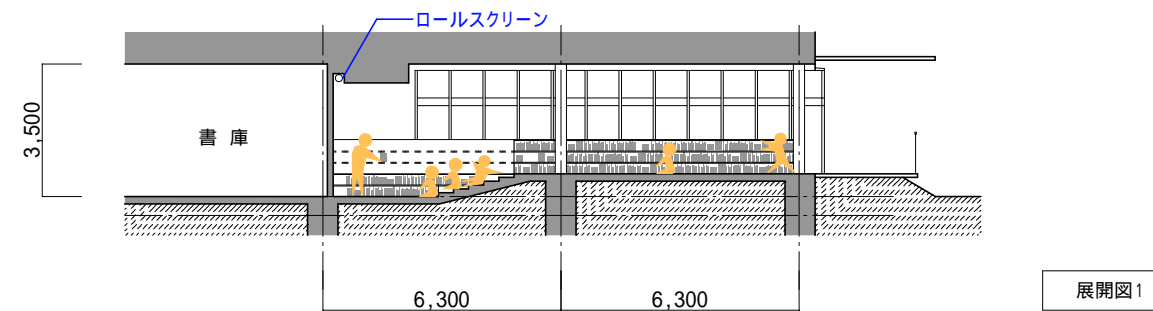
- ・読み聞かせスペースは、最大60名程度の利用を想定したスペースとなっている。
- ・クッションやスツールを適宜配置し、子どもが好きな場所で本に親しむことができる計画とする。

### 読書テラス

- ・北面と東面には、外部に庇を設けた開口部を設置し、直射日光を遮りながらも、やわらかい自然光を室内に取り入れる計画とする。
- ・屋外で本を読む空間を創出する。また、テラス周囲は管理扉付きの手摺柵を設け、子どもが外に出れない対策をする。非常時には屋外への避難経路となる計画とする。



子ども図書室 平面図 1/200



展開図1

書棚とベンチイメージ



室内の本棚については、木質かつカラフルなデザインとすることで、子ども専用室らしい雰囲気を出します。

自由な場所で読書



図書室内は壁際に書棚を配置し、広々とした空間構成とすると共に、フローリング仕上で上足利用として運用することで、子どもたちがお気に入りの場所で、自由な体制で読書ができるように計画します。

読み聞かせスペースイメージ



図書室内に階段状の読み聞かせスペースを設けます。スペースの前面にはスクリーンを設置し、読み聞かせだけでなく、上映会も行えるように計画致します。



## 多目的フロア計画

多目的フロアは600人規模の客席を有し、市民や各種団体の多様な活動に利用できる計画とする。

ステージの広さも、現在の大洋公民館の大集会室のものより広い計画とし、市民がより広い空間で活動できる計画とする。

### 床形式

- 多目的フロアの床形式は、ステージ部分と客席部分がフラットな平土間形式としており、舞台前に前迫を設け、床を下げることでステージが形成される仕組みとしている。
- 床面は、客席を可動式とすることで、演劇や演奏会などのステージ利用の形式から、ダンスや展示会、パーティーなど、柔軟に対応できるフロアとしている。

### 客席

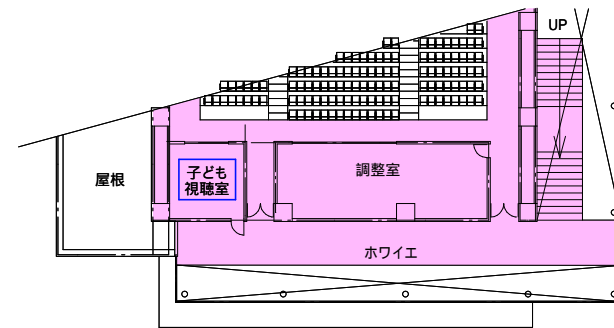
- 客席は、前部を収納性に優れたスタッキングチェア(可動席)とし、後部を壁面のように格納できるロールバックチェア(自動式移動観覧席)の客席構成とする。
- 客席数は、スタッキングチェアが141席、ロールバックチェアが464席の合計605席の計画としている。車椅子スペースは、ロールバックチェア前に設ける計画とする。
- 子連れの利用者に配慮し、子ども視聴室を2階に配置した。乳幼児連れや、急に子どもが泣き出した場合でも、周囲に遠慮せずに、子どもと鑑賞ができる部屋を計画する。

### 裏方通路

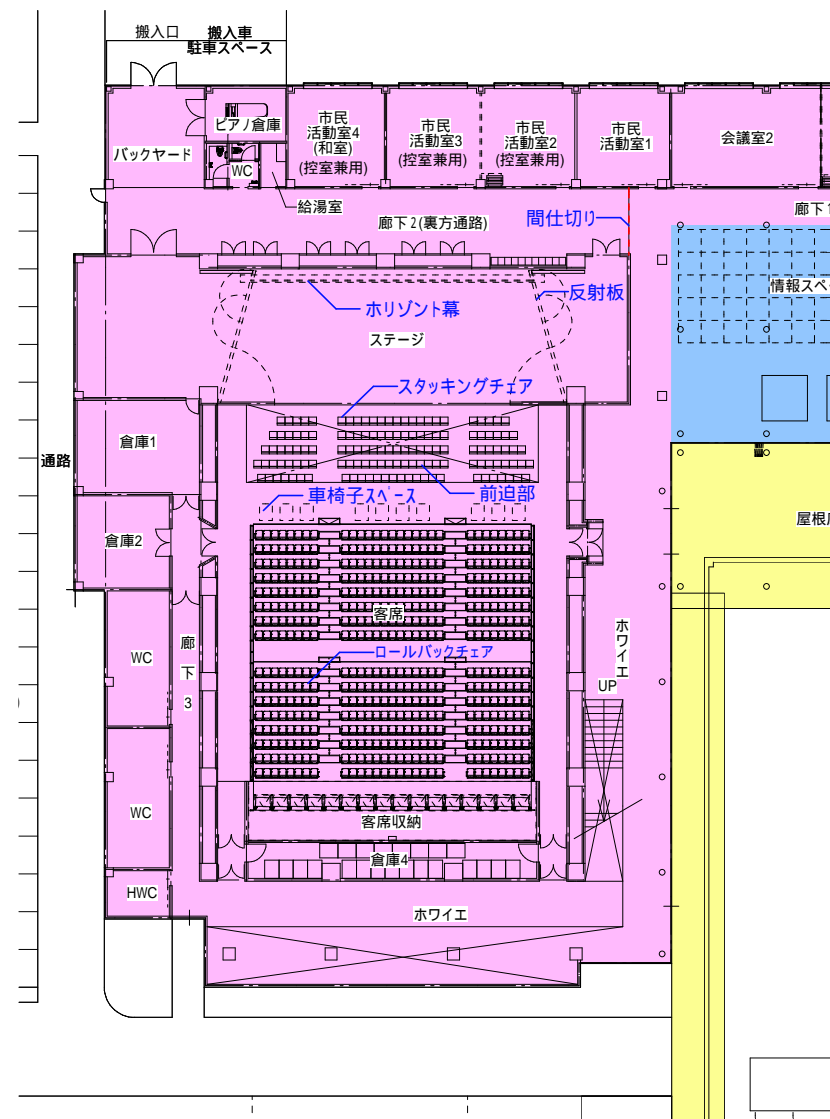
- 床面積の効率化の観点から、裏方通路としての利用をステージ裏の廊下2と兼用する計画とする。廊下2は多目的フロア1階平面図に示す位置に仕切りを設けることで、ステージ裏の諸室を他のエリアと区画して利用することが可能である。
- 廊下とステージ裏動線を兼用することで、ステージ奥行を確保できるとともに、廊下2の通路幅を広く設けることができる。広い通路幅を確保することで、イベント時の機材置場のほか、ダンスや合唱等の大会の際に、発表者の待機場所となることを想定した計画とする。

### ホワイエ

- ホワイエは、明るく開放的な空間とし、来館者がゆったりと滞留できるスペースを確保する。また、建物の出入口を客席数に対して十分に確保し、非常時のスムーズな避難動線の確保を図る。



多目的フロア 2階平面図



多目的フロア 1階平面図 1/500

### 客席

ロールバックチェア(自動式移動観覧席)とスタッキングチェア(可動客席)を組み合わせた客席とし、多目的に対応できる客席形式とする。



(展開時)



(収納時)

- 座席展開時は、講演会・コンサート式典など集会イベントの開催が可能となる。
- 座席収納時は、ダンス・展示会・パーティーなどでの利用が可能。また、災害時には、避難所としての利用に適している。

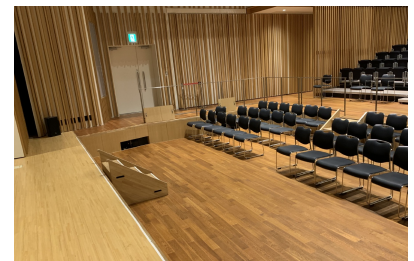
### 床

多目的性に配慮し、ステージ部と客席部の床が平らにつながる平土間式とする。ステージ前に前迫を設け、床を下げることでステージが形成される仕組みとする。前迫機構は設営の負担軽減を優先し、電動昇降式で計画を行う。

### 電動式



(平土間時)



(ステージ形式時)

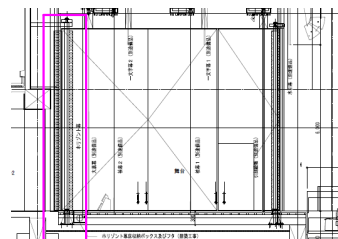
- 舞台前迫を機械作業により、調整する方式となる。
- 平土間 段床 への切替が、二人掛かりで概ね15分~20分程度で行える。(上昇、下降の操作を行う際は、安全管理の為、2人掛かりで行う必要あり。)
- 前迫を上昇させた場合は、舞台 前迫 客席床の床レベルがフラットになり、一体的な利用が可能となる。

### 舞台反射板



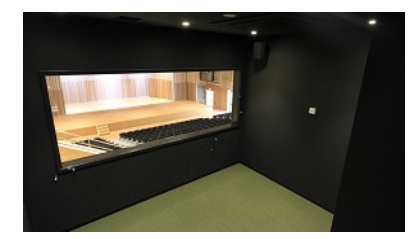
- 舞台両サイドに鋼製建具仕様で設置する。
- 舞台幅を調整するサイドパネルの役割も果たす。

### 水平幕



- 舞台床下に収納ボックス内に設置
- 上部バトンにより、吊り下げ
- 展開 収納は電動操作により行う為、所要時間も短く、作業も容易に行える。

### 子ども視聴室



- 子ども同伴利用者への配慮として、上演中などに乳幼児が泣いてしまった際などに利用できる防音室を整備する。
- 観覧については、ガラス越しとするか、映像での鑑賞方式とするか検討する。



エントランスホールまわりの計画については、幅広い世代の市民交流が促進される空間となることを目指す。また、エントランスホールは『来館者を気持ちよく迎え入れ、ほっと佇んでもらえる施設の玄関』として計画する。十分な広さと明るさを確保して、開放的な空間を形成する。

エリア構成

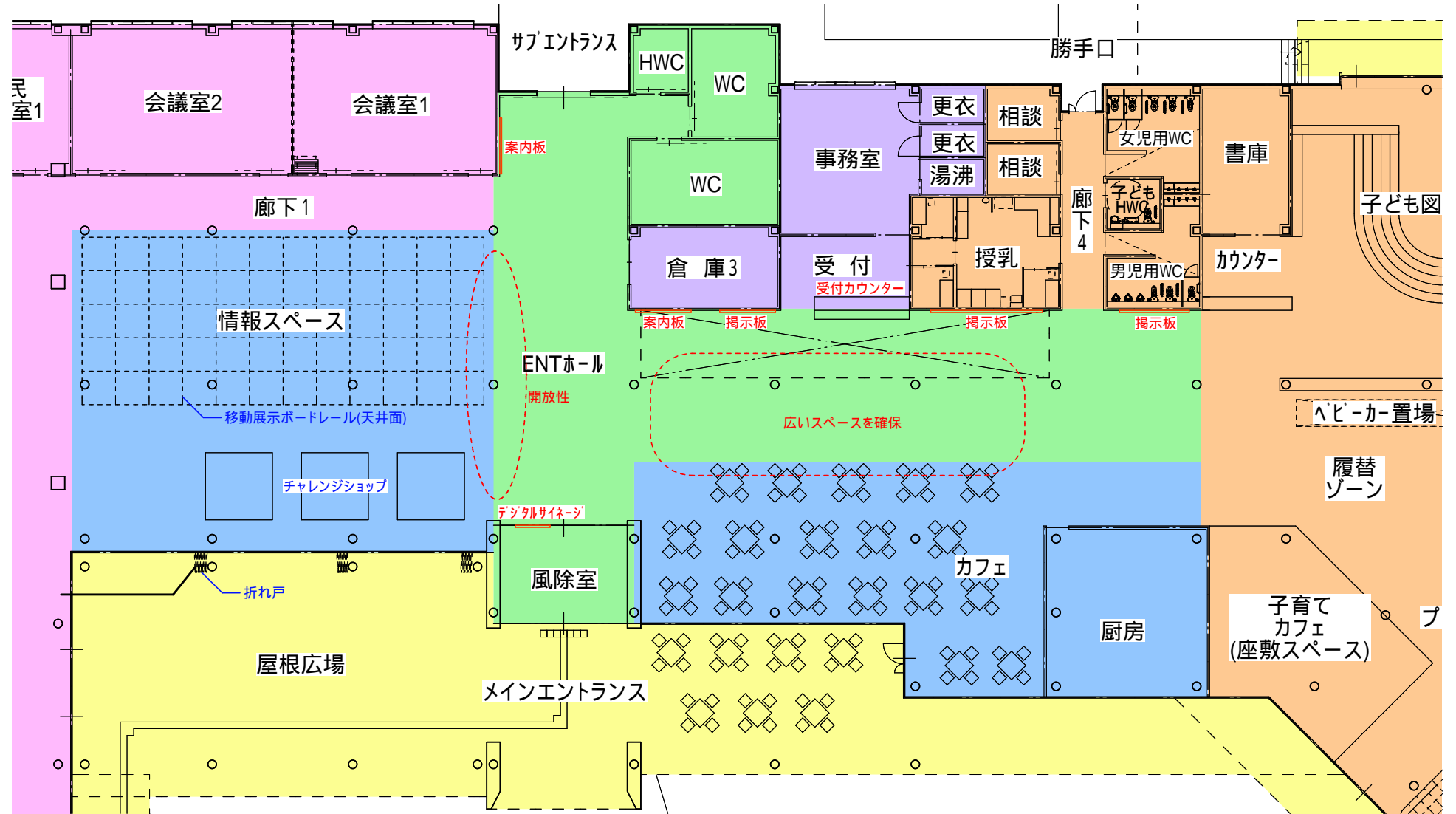
- ・エントランスホールに入って、見やすい箇所に館内案内図や受付を設けるとともに、事務室及び受付は、職員が館内を把握しやすい位置に配置する。
- ・情報スペースやカフェを、壁で仕切ることなく、エントランスホールに向けて開放的に設けることで、多くの来館者の目に留まるように計画する。
- ・受付前の部分に広いスペースを確保することで、市民活動等による作品展示などが行える計画とする。

情報スペース

- ・情報スペースには、市の産業や観光資源をはじめとする情報発信のほか、市民活動による情報発信など、可変的に展示空間を設えられるよう、移動間仕切りによる展示ボードを計画する。
- ・個人等で販売活動などを行いたい利用者向けに、チャレンジショップと名付けたスペースを確保する。
- ・情報スペースの屋根広場に面した開口部は、建具を全面的に開放できる折れ戸を採用し、屋根広場やマルシェ広場でのイベント時における、内外の連続的な利用連携を図る。

カフェ

- ・カフェの厨房は、加工品を用いた調理を主軸としながら、地元食材(主に野菜)の簡易的な加工ができる設備を設け、軽食やドリンクといった調理が容易なメニューの提供を主体とする厨房仕様で計画する。
- ・カフェの席をエントランスホールと間仕切りを設けず、オープンスペースとして計画することで、カフェ利用者だけでなく、休憩や歓談にも利用されることを想定している。また、カフェの外部の底下にはテラス席を設ける想定としている。



情報発信エリア 平面図 S=1/250

展示ボードイメージ



- ・移動間仕切りにより、利用目的によりフレキシブルにレイアウトの変更が行える設えとする。
- ・天井には格子状にレールを設置し、利用者の任意の位置にて設置し、展示ボードとしても利用が可能である。
- ・移動間仕切りにより、スペース全体を囲い、展示室として設えることが可能である。

チャレンジショップイメージ



- ・1坪~2坪程度の貸出ブースを設置し、将来的に自分の店舗を持ちたい、市内で開業したいという意欲を持った方へ、独立や創業に向けた経験と実績を積むために貸し出すエリアである。
- ・月単位程度で契約を結び、スペースの貸し出しを行う。

カフェイメージ



- ・エントランス空間から一体的に構成されたエリアの一角にカフェを配置。地元産食材を使用した料理など、地元食材の宣伝の一役を担う。
- ・エントランスとの境に間仕切りを設けず、オープンカフェスタイルとすることで、来館者が気軽に立ち寄れる雰囲気を出し、利用を促進する。

開放的な折れ戸イメージ



- ・コンパクトに折りたたまれる建具で、幅の広い開口を確保でき、とても開放感が得られる建具。外部との連続性のある空間を形成できる。

デジタルサイネージのイメージ



- ・デジタル媒体による掲示のため、お知らせや広報を容易に行え、誘目性も高い。
- ・例えば、エントランスにて、当日の催し物の案内や、カフェでのおすすめメニューの案内など、日替わりの情報発信が容易に行える。

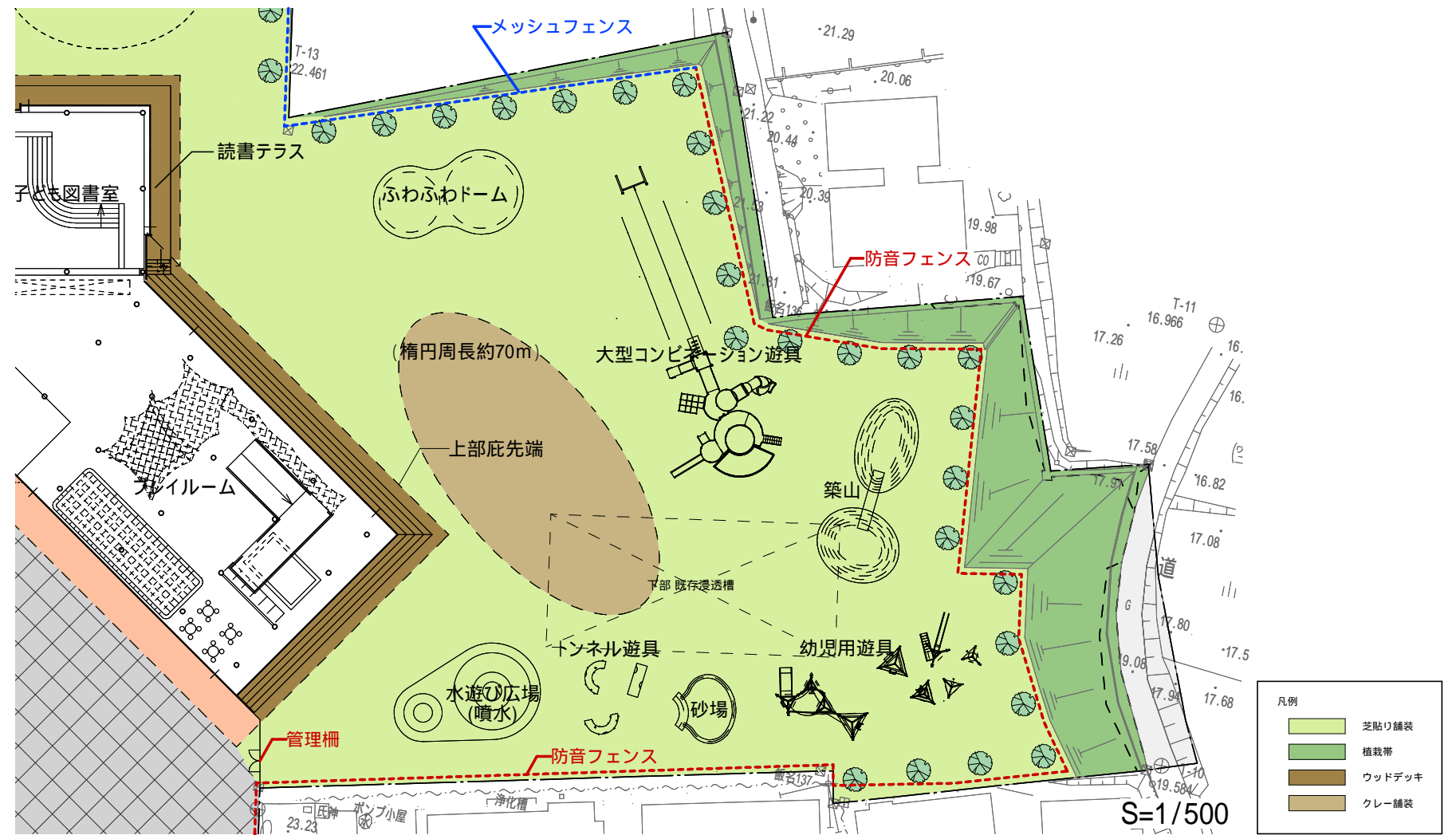


## プレイゾーン(屋外遊具広場)計画

屋外遊具広場であるプレイゾーンは、建物及び管理柵により、屋外の他のエリアとは別区画とするように配置する。また、遊具配置にも配慮し、保護者が安心して子どもを遊ばせることができ、屋外でのびのびと遊べる計画とする。

### 遊具配置

- ・遊具の配置にあたっては、十分な安全領域を確保しながらプレイゾーンの外周部に配置し、中央部に子どもたちが走り回れるスペースを形成する。
- ・屋外に設置する遊具は、幼児から学童までの子どもが、発育・体格差に応じて安全に楽しく遊ぶことができる遊具を設ける。
- ・遊具計画としては、大型コンビネーション遊具、ふわふわドーム、築山、幼児用遊具、砂場、トンネル遊具、水遊び広場を設け、身体全体を使うような遊具を計画する。また、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが楽しく遊ぶことができる計画とする。
- ・隣接住宅があることから、住民に配慮した計画とする。



### プレイルーム開口部イメージ



プレイルームの子ども広場に面した部分は、横に大きく開く開口部を設けることでプレイルームと子ども広場の一体感を図る。内部と外部を自由に行き来ができ、のびのびと遊べる空間とする。

### 各遊具イメージ

#### 大型コンビネーション遊具イメージ



学童の子どもも遊べる規模の大型の遊具を設置する。多様な要素が組み合わさったコンビネーション遊具を提案。広場の中央正面に配置し、広々としたスペースの確保と、賑わいの創出を図る。

#### 砂場イメージ



砂場をベンチで囲むことで近くで保護者が座りながら子どもを見守り、一緒に遊ぶことができる。

#### トンネル遊具イメージ



小さな幼児も遊べる遊具として提案。隠れたり、覗いたり、子ども同士や保護者と一緒に楽しむような遊具。

#### ふわふわドームイメージ



膜に空気を流し込み膨らませた、トランポリンのような遊具。様々な施設にて採用されており、人気が高い遊具である。利用人数の制限のほか、怪我や事故防止のために、年齢制限や年齢ごとのエリア分けや、監視員が必要と思われる。

#### 築山イメージ



小さな幼児がソリすべりや傾斜登りをするを想定した、なだらかな傾斜の築山を設ける。築山に橋を架けるなど、子どもの好奇心を湧かせる工夫を行う。

#### 幼児用遊具イメージ



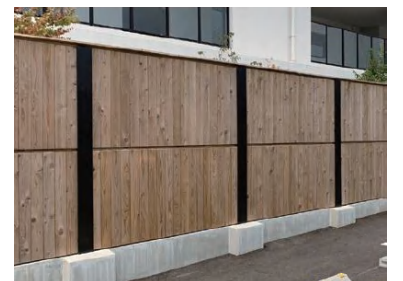
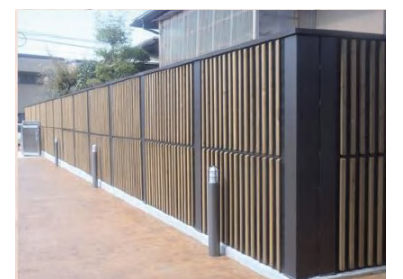
小さな幼児が学童の子ども等の大きな子とは別に、体を使って遊べるような幼児向けの遊具を設置する。

#### 水遊び広場イメージ



比較的小規模な噴水を想定。プログラミングによる、子どもの興味と好奇心をあおぐ噴水で水遊びをする。

### 防音フェンスイメージ



近隣への騒音対策として設置する防音フェンスを木製とすることで、敷地周辺環境との調和を図り、敷地内外の景観に配慮する。